



自然素材で健康に!

「エコロジー建築」との出会い

エコテストマガジン

環境と人の健康に与える影響をテーマに、ドイツのエコテスト出版社が設立されたのが1985年、今から20年ほど前のこと。「エコテストマガジン」「エコハウス」は、駅のキヨスクで買えるほどドイツではポピュラーな月刊情報誌です。

さまざまな生活用品や家庭用品、エコ住宅、建材を紹介し、外部委託の検査機関が独自にテストを行い、雑誌で情報公開しています。消費者が安全性やリサイクル性などを判断し、健康的で環境にも優しい製品を選ぶための手助けになっているのです。

アンケート調査によると、国民の50%以上がエコテストの情報に参考しているという結果が出ています。そして、この「エコテストマガジン」が1991〜1993年に公表した記事が、日本で1冊の本にまでとがらわれています。それが、「エコロジー建築」の師である故高橋元氏が翻訳した「エコロジー建築」です。1995年に青土社から出版、もう9年前のことになります。

本屋でなんとなくタイトルにひかれて手にしたのですが、今ではこの本が僕たちのバイブルとなっています。

連載中の素材自店は、多分にこの本に影響されたものです。はつきり言ってこの本との出会いが無ければ、僕たちが住宅建築に関わることは無かつたと思います。昨今の自然素材、健康素材ブームのルーツがここにあります。

―何もすぐにコンポスト・トイレ(貯蔵堆肥トイレ)や雨水貯蔵、屋根緑化、地下室にソージェネレーション・システム(自家発電熱装置)の備わった完璧なエコロジー住宅から始める必要はない。壁に囲まれた居室を健康的な空間にするといった、身近なことから始めることもできる。何よりも大切なのは、建物を新築したり改造しようとする人が、どのような建築材料が世の中にあるのかを知ることだ。トバースブルーのラッカー塗料や繊細な草柄模様の壁クロス、そしてふかふかしたカーペットや居心地の良いフローリング(木質系床)にも毒性の化学物質がたくさん隠

右:高橋元訳「エコロジー建築」
左:ドイツの月刊情報誌「エコテスト」出版者の「エコハウス」



されている可能性がある。それは壁から屋根にいたるまで、いたるところに隠れているといえる。―高橋元訳「エコロジー建築」(青土社刊)より

ドイツでこのような雑誌が20年近く前から発売されていた背景には、環境先進国であるこの国で、新建材の登場により住まいの室内空気汚染が進み、さまざまな健康障害に悩む人が増え、さらにこのことが地球環境の汚染に直結する大きな問題となることがありました。建て主が積極的に家づくりに参加するドイツでは、リスクの少ない建材に対する関心が高く、建材に対するエコテストが必要とされたからなのでしょう。

「素材自店」誕生

僕たちの家づくりは、この本と出会ってまもなく、自分たちの住まいづくりからはじまりました。見た目が全ての商業施設、店舗のデザイン・施工を仕事にしていた僕たちにとって、エコロジカルな手法でつくる住宅はとても新鮮で興味を引かれるものでした。そして決定的だったのは、家が病気を引き起こすことがあると気づいたこと。家族を守るためにも、健康に暮らせる住まいをつくらなければならぬと思っただけです。

ただ、初めはどこから手をつけたらいいのか、どこまでやればいいのかかわからず、とにかく戸惑ったな、というのが実感です。とりあえず使えそうな素材の情報を片っ端から集めることからはじめ、カタログや資料を取り寄せ、これと思ったサンプルを送ってもらい、素材を選択。そして、自分たちの住まいがエコ住宅の実験場となっていくのでした。

苦労して集めた素材を無駄にしたいくなかつたこと、自分たちと同じような気持ちで家を建てたいと思っている人たちの役に立つだろうと思っただけです。

僕たちのエコテスト

とにかくそれまで僕たちが使っていた素材は、ほとんど使い物になりませんでした。ほとんど全ての素材・材料を見直さなければならなくなつたのです。

当時、国産の下地合板、化粧ベニヤはホルムリンがたっぷり入ったユリア系接着剤で貼り合わせられていました。フェノール接着剤を使った輸入材の構造用合板類と、臭いが移るとまずいという理由でつくられていた食品梱包用のシナベニヤ板しか使えない。これがまた当時から高かったのです。今では以前とほとんど同じ

価格で非ホルムリン系の合板、化粧ベニヤが手に入るようになっていきます。しかし問題は、ホルムアルデヒドだけではありませんでした。ホルムアルデヒドの放出量が少ない印であるFスタンプの横に防虫処理済のスタンプが押され、さらによく見ると小豆粒ほどの虫の巣が。代替として、数え切れないほどのさまざまな化学物質が使われているのだから、安心はできません。

また、一般的な塗料は石油化学物質でできています。当時は有機溶剤を含まない自然系の塗料は、国産・輸入品共にそう多くはありませんでした。自然系といっても、自然原料だけの自然塗料と、石油系溶剤を含む自然系塗料に分かれています。

まず初めは、国産の安い自然塗料を選んで使いました。テレピン油を溶剤に使用した自然原料の塗料でした。ここ

ろがこいつの臭いは強烈でした。サンプル程度では感じないことが、現場での使用量が多ければ多いほど違う結果を導き出す。現場から帰ると服に臭いが染み付いて、明らかに目や皮膚を刺激する揮発物質が放散されているのを感じました。

木をシロアリなどの害虫やカビなどから守るため、あるいは畳にダニや虫がつかないように、農薬系の保護剤、防虫剤が使われていました。住まいから農薬を排除しなければならぬ。安全な天然系の塗料・保護剤・接着剤など自然素材を使った住まいづくりだからこそ、有害物質が添加されていない製品は欠かせませんでした。

接着剤は今でこそ、ホルムアルデヒド、可塑性、トルエン、キシレンなどを含まないものが主流となっていますが、そのころは平然と有害物質を含む接着剤が使用されていました。壁紙のクロス糊などにはまだホルムリンが添加されていて、職人さんたちの間でモアレルギー体質になってしまった人が多いという状況でした。

こうして苦労してつくった住まいが、果たして安全なのか、正しかったのか。その確認をする必要がありました。

当時開発されたばかりだった、電解式で何度でも測定できる国産の簡易ホルムアルデヒド測定器を購入。実際に測定をはじめると、自然系

塗料の溶剤に含まれる柑橘油やテレピン油にも反応してしまつたことがわかり、これにはさすがに困りました。そのころは、ホルムアルデヒドの室内濃度0.08ppmを目標にしていた時代だったので、さまざまな干渉物質を含めて目標値以下になるよう注意することになりました。

PROFILE

西條正幸 Masayuki Saijo

エコロジーデザイナー。1960年伊達市生まれ。札幌を中心に商業施設のインテリアデザイナーとして活動。現在は人と環境にやさしい居住空間をテーマに、エコロジー建築による店舗住宅の新築、リフォームの設計・施工、エコロジー建材のコーディネートなどに応じている。一級建築士事務所(有)西條インテリアデザイン設立。代表取締役。エコスタイルショップ「素材自店」店主。



Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築

健康と地球環境のやさしさを大切にした住宅建築、店舗、リフォームがわたしたちの仕事です。エコスタイルショップ「素材自店」では、エコ建材や塗料など、こだわりの自然素材を展示しています。健康な住まいを考えるユーザー必見です。

エコフロアのお掃除とメンテナンスに!

水性ワックス 自然成分100%

ドイツリボス社の「グラノス」は、人と環境にやさしい自然成分100%の水性ワックス。7種の植物ワックス配合でニオイも気にならず、アレルギーの方も安心のエコワックスです。お掃除のクリーナーとして、水で薄めて使うこともできます。

グラノス

1リットルボトル ¥4,500
(消費税別・道内送料¥500)

ご注文・お問い合わせは下記までご連絡ください。



エコスタイルショップ素材自店

エ/コ/ロ/ジ/ー/建/築/工/房

(有)西條インテリアデザイン

本社/札幌市北区百合が原4丁目8の1
(百合が原公園向かい)

TEL 011-774-8599

E-mail:eco@saijo-d.com

伊達支店/伊達市舟岡町50-28

TEL 0142-22-0138

http://www.saijo-d.com